



但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2011.12 第27号

但馬国府国分寺館
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町祢布 808
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



深田遺跡で見つかった窪地（北から／兵庫県立考古博物館 写真提供）



第25回企画展

但馬国府と深田遺跡 －国府の景観を探る－

古代但馬の「都」であった但馬国府は、移転をしていることが知られています。『日本後紀』延暦23年（804）正月条に、「但馬国治を気多郡高田郷に遷す」と記されているからです。移転後の国府は、これまでの調査により、祢布ヶ森遺跡が中心になっていることが分かっています。

さらに、祢布ヶ森遺跡の周辺には、官衙的色彩の濃い遺跡が点在しています。例えば、祢布ヶ森遺跡の北東に位置する深田遺跡からは、木簡や墨書土器、祭祀具などが多く出土しています。さらに、深田遺跡の東に位置する川岸遺跡からも大量の祭祀具が出土していて、いずれも但馬国府

に深く関連する遺跡であると考えられています。しかし、祢布ヶ森遺跡と深田遺跡・川岸遺跡などの関連性は十分に解明できていないのが現状です。そこで今回の企画展では、祢布ヶ森遺跡の周辺に分布する遺跡を紹介し、但馬国府の中心をなす祢布ヶ森遺跡との関係を探っていきます。

■第25回企画展「但馬国府と深田遺跡－国府の景観を探る－」
平成23年12月8日（木）～平成24年2月28日（火）

■展示協力機関・個人

兵庫県立考古博物館 岡田章一 藤田淳

● 深田遺跡

深田遺跡は、豊岡市日高町水上^{みのかみ}にあり、但馬国府・国分寺館や祢布ヶ森遺跡の北東約1kmの位置にあります。

この地は、但馬国府の有力な所在地候補の一つ。昭和60～61年(1985～86)に国道バイパス建設に伴い、兵庫県教育委員会によって発掘調査がおこなわれ、両岸を護岸した沼状の窪地と、井戸、溝などが見つかっています。



深田遺跡の周辺に広がる奈良・平安時代の遺跡



深田遺跡の発掘調査の様子(西から)
兵庫県立考古博物館 写真提供

● 深田遺跡の木簡

深田遺跡からは、34点の木簡が出土しています。木簡には、題籤軸^{だいせんじく}とよぶ巻物の軸が多いことや、「大同五年」(810)・「弘仁三年」(813)・「弘仁四年」(814)などの年号が記されていることから、9世紀前半に文書行政を扱う機関が存在していたことが分かります。

木簡には、郡や郷の権限を超える内容が含まれています。そのため、郡以下の機関で使われていたとは考えにくく、国府で使われていたと考えられます。さらに、「官稲」や「稲文」、「田率」、「租未進」、「墾田」といった、田地の管理や租・稲の収納にかかわる内容も多いため、但馬国府内で田地や稲の管理に携わる施設が深田遺跡の近くにあったのでしょう。



深田遺跡出土の題籤軸木簡
兵庫県立考古博物館 写真提供

● 深田遺跡の土器

深田遺跡からは大量の土器が出土しています。そのうちの93.5%は小型の食器類。壺や甕などの貯蔵用の土器や、鍋などの調理用土器はほとんど出土していません。

それは、古代の役所では宴会がしばしば開かれ、大量の食器が消費されたから。一方、庶民の家では、鍋や甕、壺、竈^{かまど}など、食器以外に使われた土器が多く見つかるという特徴があります。食器の割合の高さは、その遺跡が「役所」かどうかを判断する基準の一つになっています。



深田遺跡出土の土器
兵庫県立考古博物館 蔵/但馬国府・国分寺館 撮影

● 深田遺跡の木製品

深田遺跡からは、約3500点の木製品が出土しています。そのうち農具など生産にかかわるものはわずか2%。深田遺跡が農業生産活動から離れた「役所」であることを強く示しています。

さらに、人形や齋串など多くの祭祀具が出土していることも大きな特徴です。科学が未発達な古代では、まじないも役所の大切な仕事の一つ。特に国府では、国司を中心に多くの祭祀が執りおこなわれていたことが分かっています。



土器・木製品の出土状況
兵庫県立考古博物館 写真提供



木製祭祀具の出土状況
兵庫県立考古博物館 写真提供



深田遺跡出土の木製品
兵庫県立考古博物館 蔵/但馬国府・国分寺館 撮影

● 川岸遺跡

川岸遺跡は、豊岡市日高町松岡にあり、深田遺跡の東0.3km、祢布ヶ森遺跡の北東1.5kmの位置にあります。

発掘調査では、新旧2本の溝が見つかり、そのうち平安時代に造られた新しい溝からは、多くの遺物が出土しました。

見つかった遺物は、人形や馬形、齋串などの祭祀具が中心。特に、顔を丁寧に墨書した人形など貴重な遺物も見つっています。これらから、川岸遺跡は但馬国府に付随した祓所（まじないをおこなう場所）と考えられています。



川岸遺跡の発掘調査風景



人形・齋串の出土状況



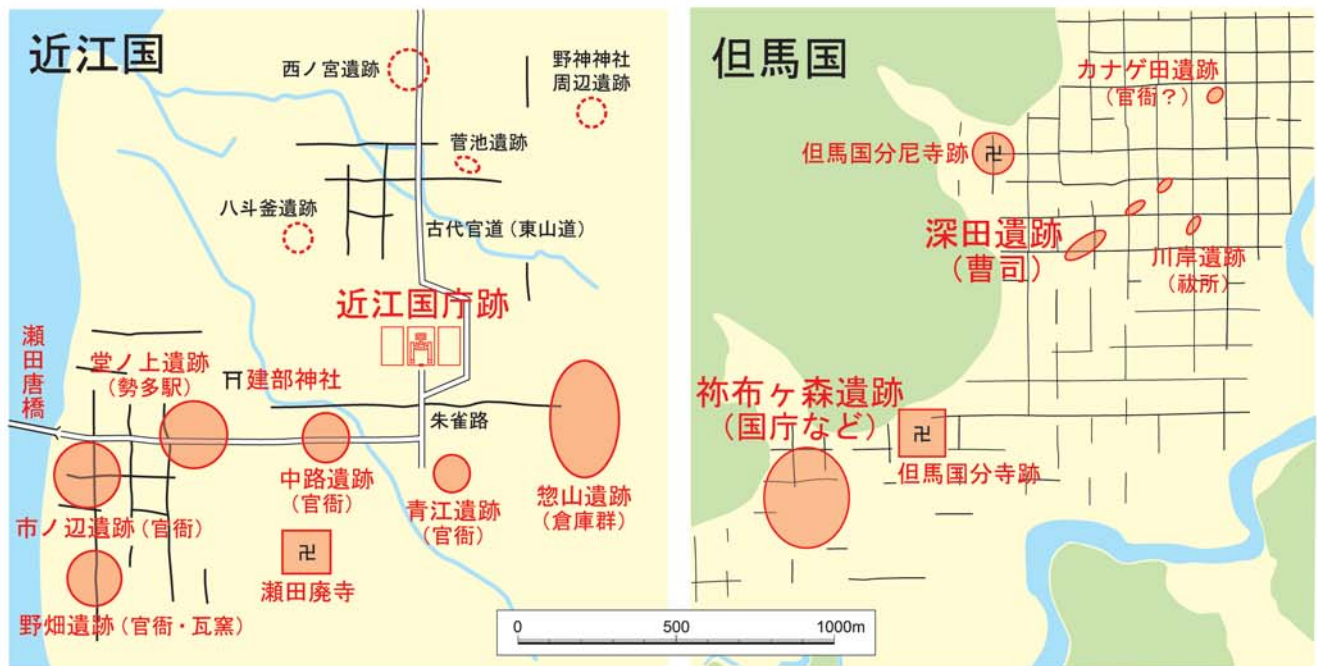
川岸遺跡出土の人形

但馬国府の景観

古代の国府には、国司が政務を執り行う「国庁」を中心に、実務機関である「曹司^{そうし}」や、国司らが滞在する「国司館^{なち}」、穀物などを納める倉、市場、工房、さまざまな労役に就く労働者が居住する施設など、数多くの機関・施設がありました。それらの施設は、発掘調査が進んでいる近江国の例にみえるように、国庁から延びる街路を中心に、計画的に配置されたことが分かっています。

但馬国府の場合は、祢布ヶ森遺跡は「国庁」をはじめ、国司館などの諸施設があったと想定できます。また、川岸遺跡は、大量の祭祀遺物が出土したことから「祓所」という祭祀場とみられます。一方、深田遺跡は、田や稲に関連する木簡が多く出土していることから、実務機関である「曹司」の一部であると考えられています。

祢布ヶ森遺跡や深田遺跡の周辺には、官衙遺跡や寺院などが点在していて、その範囲は近江国とほぼ同じ。古代では、この範囲が「国府」として認識されていたと推測できます。今後は、官道（街路）を見つけるとともに、各遺跡や遺構の性格を究明していく必要があります。



近江国府と但馬国府の景観

お知らせ

■館長講座「但馬国府の謎を探る」

日時：平成 24 年 2 月 11 日（土） 午後 1 時 30 分～
 会場：但馬国府・国分寺館 映像ホール
 講師：加賀見 省一（当館館長）

■学芸員講座「但馬国府の景観」

日時：平成 24 年 1 月 21 日（土） 午後 1 時 30 分～
 会場：但馬国府・国分寺館 映像ホール
 講師：前岡 孝彰（当館学芸員）

* 講座終了後、企画展「但馬国府と深田遺跡」の展示解説をおこないます。
 * 聴講には入館料が必要です。
 * 予約は不要です。

但馬国府・国分寺館 ご利用案内



■開館時間 午前 9 時～午後 5 時
 （入館は午後 4 時 30 分まで）

■休館日 毎週水曜日
 （祝日は開館し、翌日休館）
 12 月 28 日～1 月 4 日

■入館料 大 人 500 (400) 円
 高 校 生 200 (150) 円
 小 中 学 生 150 (100) 円

* () は 20 名様以上
 * 県内小中学生は無料
 * 65 歳以上の方は半額



ホームページ QR コード

■イベント案内などの最新情報は、当館ホームページをご覧ください。

<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>